

ギフチョウの卵みつけたよ！

～竜丘小学校地域探索「丘のみちしるべ」～

4月28日(火)、竜丘小学校全校児童が一斉に地域探索に出かけました。

地域にある公園や神社、古墳など、1年生から6年生までが各々のコースで探索開始です。

3年生はこの日、地域に生息する天然記念物「ギフチョウ」の勉強のために、ギフチョウ公園を訪れていました。ギフチョウに詳しい地元の講師 松下重雄さんの説明を、72名の児童が耳を傾けて聴いています。

「ギフチョウはね、日本の本州にしかいないチョウなんだよ。卵は必ず“カンアオイ”の葉の裏側に産むんだ。そこに隠れているから、周りの敵から襲われずにきたんだね。ギフチョウの先祖は氷河期時代に生息していたといわれているから、“生きた化石”ともいわれているんだよ」

ひと通り説明が終わると、「みんなで卵をみつけよう！」ということで、周辺のカンアオイを観察することに。その時でした。



「卵があったよ！」

と松下さんの大きな声が聞こえてきました。先生からの指示で子どもたちは順番に並びます。

「13個あったね！」

「ビーズみたいだった！」

「みんな！とてもすばらしい宝物を手に入れたね！」先生の大きな声が、ギフチョウ公園に響きます。



最後は松下さんへの質問コーナーの時間です。「何か聞きたいことはないかな？」松下さ

んの問いかけに沢山の手が上がりました。

「ギフチョウは、どうして春しか飛ばないの？」

「卵を産んだら死んじゃうの？」

「成虫もヒメカンアオイを食べるの？」

「どうして一度にたくさんの卵を産むの？」

など、たくさんの“いい質問”が出され、松下さんはとてもうれしそうに一つ一つ丁寧に答えてくださいました。

「ギフチョウは、飯田市が指定した天然記念物です。現在では非常に希少価値が高くなっているんですよ」

「最近確認される卵の数は、数年前と比べて著しく減少してきています。地球温暖化の影響があるかもしれません。山林の開発が進み、生息場所が失われている影響もあるでしょう」

「そういう中で竜丘の人たちは、ヒメカンアオイを移植したりして、なんとかギフチョウを守ろうとがんばっています。みんなの先輩も、一緒に協力してくれたんですよ」

今回の3年生の地域探索は、単に地域を知るだけでなく、ギフチョウの勉強を通じて先輩たちの思いを知り、そして地球環境を考える「環境教育」の機会にもなったようです。

『テレビが消えて

家族の会話が増えました』



「スイッチを切る」とは？

丸山小学校では、昨年11月のPTA講演会「子どもが危ない！メディア漬けが子どもを蝕む」（清川輝基氏）を契機にして、PTAと連携して「スイッチを切る」という活動を展開しています。

この活動は、家庭でテレビやゲーム等のスイッチを切る時間を設けることにより、生活のリズムを大切に、家族との会話や読書、友だちとの遊びの時間を増やし、周囲との人間関係を深めるとともに心の安定と学習意欲の向上をめざそうとするものです。

昨年10月に丸山小学校で行った「生活についてのアンケート」によれば、特に高学年のテレビ・ビデオ・ゲームの時間の長いことが明らかになりました。6年生においては、普通日でもほぼ半数の児童が3時間以上テレビやビデオ、ゲームにふれており、4時間以上という児童も25%いるという結果でした。また、全校のほぼ3分の1の家庭では、テレビやゲームなどの約束を決めていないという状況も示されました。

こうしたメディアとのかかわりは、就寝時刻を遅くするだけでなく、生活のリズムや家庭学習の時間の確保、家庭での団らん、学校での授業への取り組みや人間関係などに、少なからず影響を与えています。そこで、丸山小学校では「スイッチを切る」という活動をPTAと連携して始めたのです。

「結いの日」に合わせて

昨年度は、12月、1月、2月の3回、「スイッチを切る」チャレンジャーとして、希望者を募りこの活動を始めました。取り組みは、食事の時はいつでもテレビを消す、テレビやゲームは何時までと決めるなど、各家庭の実情に合わせて一歩前に踏み出すため活動です。

そしてこの活動を「結いの日」に合わせて取り組んできたのです。

「家の人とよく話をするようになった」

昨年度は、チャレンジャーによる「スイッチを切る」活動を、約4ヶ月実施しました。その結果、長い時間テレビを見たりゲームをしたりする児童は減りました。また、テレビやゲームに関する約束を決める家庭が増え、食事の時テレビをつけている家庭も減りました。それだけではなく、朝食をとってくる児童が増え、「家の人とよく話す」と答える児童も増えるなど、テレビやゲーム以外のところにも効果を及ぼしたようです。

また、こんな感想が児童や家庭から学校に寄せられたそうです。

「テレビがついていないときのほうが、家族と話げできた。」（2年女児）や「テレビが消えることで、家族の会話が増えました。笑いもいっぱいありました。」（保護者）など、家族のふれあいが増えたことに関する感想がありました。

また、「だらだらとテレビを見ないように、きちんと時間を決めて見るほうがいいと思った。」（1年男児）や「いつもだらだらとテレビをつけていることが、分かってよかったです。」（保護者）のように、見たいというわけではないのに何となくテレビをつけて過ごしていることに対する反省もありました。

中には、「テレビ番組に入浴時間を合わせていたことが、まるでうそのようです。自分たちのペースで過ごすことができました。」（保護者）や「気づいたことは、会話の内容が、テレビから話題を見つけていたことでした。」（保護者）のように、知らず知らずのうちに自分たちがテレビに生活を合わせ、自分たちの生活がテレビによってコントロールされていたのではないかという気づきもありました。

わが家の「結いタイム」

～ 丸山小学校の取組みから ～

今年度も「スイッチを切る」にチャレンジ

昨年度の感想の中には、「テレビを消して、兄弟と遊べたからよかったです。これからもしてください。」(3年女児)や「家族のみんなと話がたくさんできたので、またやりたいです。」(5年男児)、「大変よいチャレンジだと思います。月に一度は、テレビを見ない日をつくってみてはどうでしょうか。」など、これからもこのチャレンジを続けてほしいという希望がたくさんありました。そして、今年度も6月から実施しています。昨年度に比べ、チャレンジする家庭が増えてきたようです。

H君の家庭では、毎週見る番組を決めて

この「スイッチを切る」活動を実践されている丸山小学校5年生のH君のご家族を訪問させていただきました。H君の家族は、お父さん、お母さん、お兄さん(中学1年)、そして妹さん(小学2年)の5人です。

お父さんに案内されて家の中に入ると、H君が「こんにちは」と笑顔で迎えてくれました。H君の家庭では「あいさつをする」ことが、家での習慣として、一人一人が大事にしているそうです。後で出会ったお兄さんも妹さんも、元気な声であいさつしてくれました。

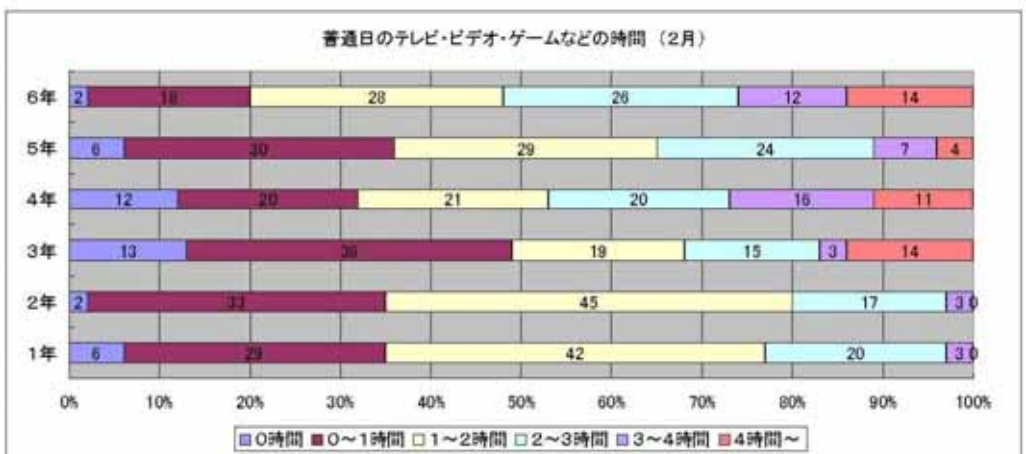
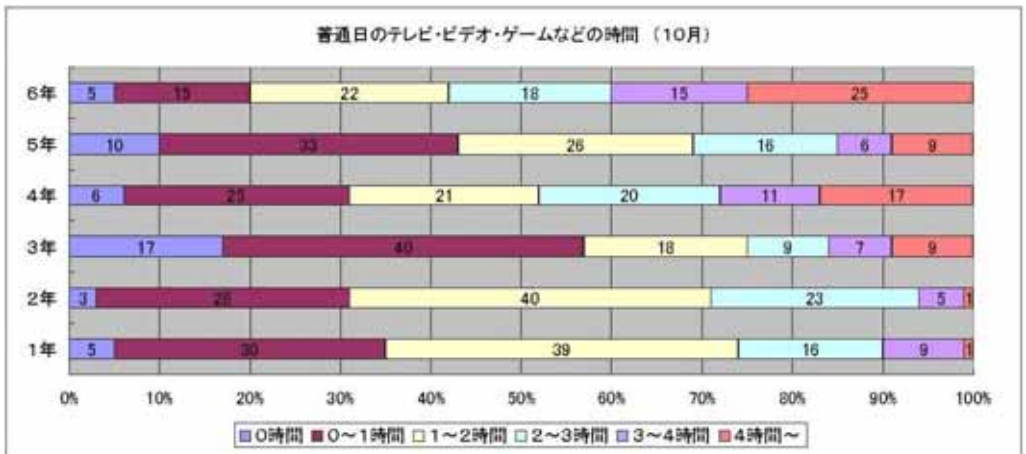
「スイッチを切る」ことについて、お聞きしました。テレビについては、ただらと見るのではなく、毎週見る番組を2つか3つに決めて見ているそうです。そして、家族との会話をとても大事にされているとのこと。会話の中心は、学校でのこと。最近はお兄さんの部活での話題が多くなったそうです。

また、家でのお手伝いも大切にされています。風呂洗い、洗濯物をたたむ、食事の手伝いなどを、子どもたちが3人で分担しています。妹の

Yさんが包丁を使って野菜を切るところを見せていただきましたが、やはりいつもお手伝いをしているのか包丁さばきは小学校2年生とは思えないものでした。お父さんは、「一人一人が家の仕事を分担し責任を持つことで、信頼しあえる家庭になる」とお話されていました。

また、3人の子どもたちは本を読むことも大好き。まさに「結いタイム」を実践されているご家庭だと思いました。

今日の夕食時には、家族でどんな会話が弾んでいるのでしょうか。





“結い・トライ・アングル”

～ キャリア教育でつくる 3つの「結い」～



「飯田」の語源は「結いの田」といわれています。飯田には昔から、田植えなどの農作業の手間を交換しあう「結い」という仕組みがありました。これは互いの暮らしを支え合い、人と人を結ぶために先人が生み出した知恵です。

今、私たち地域の大人が、この「結い」の精神を受け継ぎつつ、地域の子どもたちに「働くことのすばらしさ」や「地域資源のすばらしさ」を伝えるキャリア教育の推進が求められています。

そこで、飯田市キャリア教育推進協議会では、「結い・トライ・アングル」をキャッチコピーとして「飯田型キャリア教育」の啓発活動に取り組むこととしました。

「キャリア教育とはどのような教育なのか」

「結い・トライ・アングル」の啓発活動を通じて、学校・地域・家庭がキャリア教育の理解を深めていただくよう呼びかけていきます。

“結い・トライ・アングル”

【結い】
「結び」「つながり」を意味します。「飯田」の語源は「結いの田」といわれています。キャリア教育で様々な「結い」が生まれます。

【トライ】
「挑戦する」「挑む」を意味します。職場体験学習など地域社会で働く大人とふれあうことを通して、子どもたちが社会や自分の将来にトライします。

【アングル】
「視点」「観点」を意味します。キャリア教育は、新たな取り組みを始める必要はありません。「キャリア教育の視点」「結いの視点」を持った取り組みを推奨していきます。

“結い・トライ・アングル”で、3つの「結い」を表します。

キャリア教育は、一人一人の子どもと大人、そして地域全体が元気になる教育です。



『働く・学ぶ・生きる』を結ぶ

キャリア教育は、働くことを通じて今の勉強や生活が大切だと気付き、子どもたちの学習意欲や生きる力を高めるための教育です。



『未来・現在・過去』を結ぶ

キャリア教育は、過去の自分を振り返り、現在の自分を見つめ、未来の自分を描くための教育です。



『学校・地域・家庭』を結ぶ

キャリア教育は、学校と地域と家庭が連携を強化し、「地域の子どもは地域で育てる」ための地域の力を高める教育です。



編集・発行：飯田市教育委員会

生涯学習・スポーツ課 地育力向上係

TEL 0265-22-4511 (内線3571) FAX 0265-22-7969

HP <http://chiikuryoku.net> (地育力どっとネット)

E-mail shougai@city.iida.nagano.jp

地育力に関する情報するサイト「地育力どっとネット」をぜひご覧ください。 <http://chiikuryoku.net>